

まーは がーな (こんにちがーな)

| | | | |
|----------|---|---|---|
| 所属 | 静岡県立御殿場特別支援学校 | 実践者 | 山口 貴史 |
| 対象 | 小学部5年(知的障害課程)14名 | 時間数 | 24時間 |
| 場所 | 教室、体育館 | 実践教科 | 生活単元学習 (学習発表会を含む) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナと自分たちの同じところ、違うところを、いろいろな視点を見つけることができる。 ・体験を通して、いろいろなことに興味関心を持ち、自分と同じ・違うことを受容していくことができる。 ・自分たち(日本)の遊びを通して、日本の伝統的な遊びや文化を体験することができる。 | | |
| 実践 内容 | 回 | プログラム | 備考 |
| | 1-3 | ◆ガーナ人ってどんな人？ ・ガーナ人(変装した教員)を見たり、話をしたりして、いろいろな視点で自分たちとの違いを見つける。 …Ex. 言葉、飲料水、国旗、服装、食事、頭の上の荷物、髪の毛、など ・あいさつをしたり、頭の上に荷物を乗せたりして、実際に体験する。 | <準備物> 現地で収集したもの(服、飲料水の袋など) ※1人の教員はガーナ人になりきって登場する。 |
| | 4-7 | ◆ガーナの服をつくろう ・ガーナの服の柄や模様、素材の違いを見て感じる。 ・ミシンや針と糸を使って、自分のガーナの服を作る。 | 不織布の服、ガーナの柄の布、ミシン、針、糸 |
| | 8-9 | ◆ガーナの楽器をつくろう ・ガーナの楽器を見たり、音を出したりする。 ・ひょうたんと小豆を使って、楽器を作る。 ・できた楽器を使って、楽曲(世界中の子どもたちが)に合わせて音を出す。 | 現地で収集した楽器、ひょうたん、小豆 |
| | 10-11 | ◆ガーナのご飯(フフ)をつくろう ・イモ(キャッサバ)とバナナ(プランテン)を使って作ることを知る。 ・木の棒と臼で、イモとバナナをつぶす体験をする。 ・フフと一緒に食べるオクラスープを見る。 | 現地で収集したフフの粉、イモ、調理用バナナ、木の棒、臼、オクラスープ |
| | 12-20 | ◆ガーナのことを紹介しよう ・ガーナ人(変装した教員)に自分で作った服や楽器に見せたり、模型を使ってご飯作りを紹介したりする。 ・たくさんの人にガーナのことを紹介する(学習発表会)。 … “あいさつ、服装、荷物運び、ご飯作り、楽器作り、楽器作り・演奏” | 作った服・楽器、臼や木の棒の模型、現地で購入した音楽CD など |
| | 21-24 | ◆正月(日本)の遊びをしよう ・書初め、凧揚げ、こま回し、竹とんぼ、けん玉を体験する。 | 正月遊びの道具 |
| | 成果 | 初めて見て、感じるガーナに興味関心を抱き、多様な視点をもって授業に参加することができた。ガーナと日本との違いを受容することが難しかった児童も、体験を通して、受容することができた。最後に、全員がガーナを好きになっている様子が見られたことは大きな成果である。 | |
| 課題 | 児童の興味関心を重視し、柔軟な授業展開にすることで、児童のいきいきとした姿を見ることができた。今後は、多様な視点をもつことと同時に、自分たち(日本)の文化への視点にも着目し、来年度の修学旅行につながるようになっていきたい。 | | |
| 備考 | 生活単元学習のため、教科・領域を合わせた授業展開となっている。また、授業期間は、9月～1月の4ヶ月間とした。ガーナのことを継続して体験的に学習することで、ガーナを身近に感じ、ねらいを達成することができるようにした。 | | |

[授業実践の詳細]

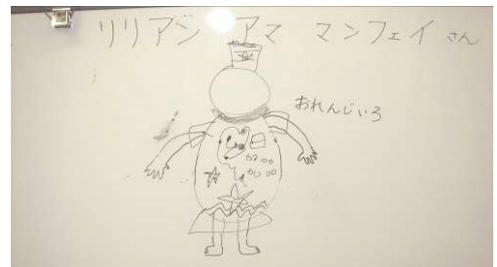
1-3 時限目「ガーナ人ってどんな人？」

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナ人と出会う
ガーナ人(変装した教員)と現地語のあいさつ(マーハ)をする。
- ② 気になるところはどこ？
自分と同じところや違うところ、気になるところを、ガーナ人に聞いてみる(言葉、水、服、服の柄、荷物、髪の毛 など)。また、ガーナ人が身に付けているものを貸してもらったり、同じこと(荷物を頭の上で運ぶ)をやってみたりする。
- ③ ガーナ人とお別れする
ガーナ人と現地語のあいさつ(バイバイ)をする。
- ④ 振り返り
ガーナ人の様子や教えてもらったこと、気になったところを、文字や絵にして共有する。

この時限のねらい

- ・ガーナ人の気になるところを見つけながら、いろいろな視点をもつ。
- ・自分の思いや気になったことを、身振り手振りを使って、相手に伝えようとする気持ちを育む。



<児童が描いたガーナ人>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 初めてのガーナ人に緊張したり、怖がったりしていたが、あいさつをしたりガーナのことを知ったりする中で、少しずつ受け入れ、自分から「マーハ」と言ったり、握手をしたりすることができた。
- ◇ ガーナ人を見て、いろいろな視点で、気になるところを見つけることができた。例えば、“服が違うだけではなく柄も違う”といった細かい視点をもつこともできるようになった。
- ◇ 言葉が通じない相手に対して、最初は恐る恐るではあったが、身振り手振りで伝えることができた。伝わったことがわかると本人の自信になるだけでなく、周りの友達にも自信を与え、多くの児童が気になったところを伝えようとすることができた。

3 使用した教材

- <教材1> ガーナ人(変装した教員)
- <教材2> 振り返りで使用する用紙やペン

4 授業の様子



4-7 時限目「ガーナの服をつくろう」

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナ人からの贈り物
ガーナからの贈り物が届き、英語の文章を読んだり、中身を見たりして、ガーナの服を作ることを知る。
- ② ガーナの服を作ろう
ガーナから届いた布と、ミシンや針と糸を使って、自分だけのガーナ服を作る。
- ③ 作った服を披露しよう
作った服を着てポーズをとり、自分の作った服をみんなに披露する。

この時限のねらい

- ・初めてのミシンや針と糸を使うことで、挑戦しようとする気持ちを育む。
- ・ガーナの服を着てガーナ人になりきり、挨拶をしたりポーズをとったりする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ いろいろな布から自分の好きな柄を選んだり、布の配置を考えたりして自分だけの服を作ることができた。ミシンや針と糸を使うことは初めてであり、難しい様子であったが、意欲的で真剣な眼差しで取り組み、自分の服を作ることができた。
- ◇ 服を着た自分の姿を鏡で確認したり、服を着た途端に「マーハ」とみんなに挨拶したりして、ガーナ人になったつもりで雰囲気を楽しむことができた。

3 使用した教材

- <教材3> ガーナからの贈り物、手紙
- <教材4> ガーナ柄の布、不織布のTシャツ
- <教材5> ミシン、針、糸

4 授業の様子



8-9 時限目「ガーナの楽器をつくろう」

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナ人からの贈り物
ガーナからの贈り物が届き、英語の文章を読んだり、中身を見たりして、ガーナの楽器を作ることを知る。
- ② ガーナの楽器を作ろう
ガーナから届いたひょうたんと小豆を使って、ガーナの楽器を作る。
- ③ 作った楽器で演奏しよう
『世界中の子どもたちが』の曲に合わせて、作った楽器を鳴らして演奏する。

この時限のねらい

- ・名前や音の出しかたなど、ガーナの楽器に興味をもち、意欲的に楽器を作る。
- ・作った楽器を鳴らして、みんなで楽しく演奏する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前回同様の流れのため、見通しが持て、贈り物の手紙や中身に興味をもつことができた。初めて見るガーナの楽器には、名前は何か、どうやって音を出すのかなど、興味をもって考えることができた。
- ◇ ガーナの楽器の中で、ひょうたんと小豆を使って楽器を作り、音を出して小豆の量を変えながら自分の好きな音の出る楽器をすることができた。作った楽器を振ったり歩いたりして、みんなで楽しく音を出して演奏することもできた。

3 使用した教材

- <教材6> ガーナからの贈り物、手紙
- <教材7> 現地で収集した楽器
- <教材8> ひょうたん、小豆

4 授業の様子



10-11 時限目「ガーナのご飯(フフ)をつくろう」

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナ人からの贈り物
ガーナからの贈り物が届き、英語の文章を読んだり、中身を見たりして、ガーナのご飯(フフ)を作ることを知る。
- ② ガーナのご飯(フフ)を作ろう
ガーナから届いた道具や食材を使って、ガーナのご飯(フフ)を作る。
- ③ フフと一緒に食べるオクラスープを見よう
フフと一緒に食べるオクラスープを見たり、匂いを嗅いだりする。

この時限のねらい

- ・普段見慣れたイモやバナナがガーナのご飯になることを知る。
- ・見たこと、食べたことのないガーナのご飯に対し、自分たちで作ることによって身近に感じ、肯定的に捉える気持ちをもつ。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ イモやバナナを木の棒と臼で潰し、見本のフフと同じになることで、普段見慣れたイモやバナナがガーナのご飯になることを知ることができた。これには、驚く様子を見せる児童も多かったが、みんな同じようなものを食べることに気づくこともできた。
- ◇ 初めて見るフフやオクラスープを最初は拒む様子もあったが、実際に自分で作ったり、匂いを嗅いだりすることで、身近に感じられるようになった。また、使ったことのない道具や経験したことのない動きなど、工程を楽しみながら作ることもできた。最後には、自分から作ったり味見したりして、肯定的に捉えることができるようになった。

3 使用した教材

<教材9> ガーナからの贈り物、手紙

<教材10> 臼、木の棒

<教材11> イモ、調理用バナナ、現地で収集したフフ粉、オクラスープ

4 授業の様子



12-20 時限目「ガーナのことを紹介しよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナ人に披露しよう
ガーナ人に自分たちが作った服や楽器、ご飯作りを実物や模型を使って披露する。
- ② 自分の得意なことを紹介しよう
いろいろな人に自分たちが作った服や楽器、ご飯作りを実物や模型を使って披露するために、自分の得意なことを決めて練習する。“あいさつ、服装、荷物運び、ご飯作り、楽器作り・演奏”
- ③ みんなにガーナを紹介しよう
学習発表会で、家族や地域の人、他の学年の先生や友達に、ガーナのことを紹介する。

この時限のねらい

- ・自分たちがやったことを披露したり紹介したりすることで、相手に伝える力を培ったり、ガーナのことを受容する気持ちをより高めたりする。
- ・自分の得意なことにするすることで、自分から意欲的に活動する、せりふを言う(声を出す)、友達と一緒にやる、などの個々の課題に迫る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分たちが学習したことを、ガーナ人に披露したり、いろいろな人に紹介したりすることを通して、ガーナのことを振り返るとともに、経験を積み重ねることで、自分の力として培うことができた。また、自分から行動したり、せりふを大きな声で言ったりすることができるようになった。
- ◇ 学習発表会で、家族や地域の人、ほかの学年の先生や友達にガーナのことを紹介した。感想として、ガーナのことがわかった、意外と同じところもある、などがあった。子どもたちにとっても相手に伝わったことが自信になり、よかった。

3 使用した教材

- <教材12> 服装の紹介(作製中の写真、プロジェクター、作った服、現地で収集したCD、ミラーボール)
- <教材13> 荷物運びの紹介(頭の上に乗せるかご、模型のバナナとイモ)
- <教材14> ご飯作りの紹介(模型の臼と木の棒、フフ、炊飯器、おにぎり)
- <教材15> 楽器作りの紹介(模型のひょうたんと小豆)
- <教材16> 楽器演奏(作った楽器、キーボード伴奏『世界中の子どもたちが』)

4 授業の様子



21-24 時限目「正月(日本)の遊びをしよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① あいさつをしよう
座布団に正座をしてあいさつをする。
- ② 書初めをしよう
今年頑張ること、やりたいことを筆で書く。
- ③ 外遊びをしよう
凧揚げをする。
- ④ 室内遊びをしよう
こま回し、竹とんぼ、けん玉をする。
- ⑤ お餅を焼こう
餅を焼いて、醤油やきな粉などで味をつけて、食べる。

この時限のねらい

- ・正月や冬の文化や遊びの経験を通して、自分たち(日本)の文化や遊びを楽しみながら知る。
- ・伝統的な日本の遊びは、自分たちにできる簡単な動きででき、面白い遊びであることに気づく。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 座布団での正座や正月の遊びを通して、日常的なこと、非日常なことが日本の文化や遊びであることを知ることができた。
- ◇ お餅焼きでは、自分たちで餅を焼き、餅が膨らんでいく様子に興味関心をもって見る事ができた。
- ◇ 日本の伝統的な遊びは、自分たちでできる簡単な動きででき、かつ、面白い遊びのため、意欲的に取り組むことができた。そのため、授業以外の休み時間にも自分から遊びに取り組む姿が見られた。今後も、自分にできる遊びを続けていき、友達と一緒に遊ぶ中で楽しみながら、日本の遊びを伝えていく人にもなってほしい。

3 使用した教材

- <教材17> 座卓、座布団
- <教材18> 書初め(書写の道具、着物)
- <教材19> 外遊び(凧)
- <教材20> 室内遊び(こま、竹とんぼ、けん玉)
- <教材21> 餅、網、砂糖醤油、きな粉

4 授業の様子

